



JASDAQ

平成 26 年 5 月 12 日

各 位

会 社 名 岡本硝子株式会社  
代表者名 代表取締役社長 岡本 毅  
( J A S D A Q ・ コード 7746 )  
問合せ先 執行役員 法務・コンプライアンス部長 井野 政之  
電 話 04-7137-3113

### 通期業績予想と実績の差異

#### 及び営業外収益(助成金収入)の計上に関するお知らせ

平成 25 年 11 月 12 日に公表いたしました平成 26 年 3 月期通期連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、お知らせいたします。

また、平成 26 年 3 月期における営業外収益(助成金収入)の計上につきまして、併せてお知らせいたします。

#### 記

#### 1.平成 26 年 3 月期通期連結業績予想と実績値の差異

(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 5,558	百万円 △306	百万円 △240	百万円 △156	円 銭 △9.78
実 績 値 (B)	5,827	△509	△412	△378	△23.74
増 減 額 (B-A)	269	△203	△172	△222	
増 減 率 (%)	4.8	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成 25 年 3 月期)	5,201	△343	△303	△311	△19.51

#### 差異の理由

売上高の増加は主にフライアイレンズの販売増加によるものです。フライアイレンズの受注が増加するなかで、フライアイレンズの専用炉である C4 炉に加えて、一部の品種について、他の製品も生産している C5 炉に振り替えております。

当第 2 四半期連結会計期間は、この C5 炉での歩留りが低く、大きな営業損失を計上しましたが、平成 26 年 1 月以降は C5 炉でも概ね専用炉並みの良品率となりました。このため受注増に対応することができ、平成 26 年 3 月度のフライアイレンズの販売は数量、金額ともに過去最高となりました。

フライアイレンズの製造コストの削減は、成型工程では歩留り向上を中心に順調に進みましたが、切断・研磨・蒸着工程については、内製化の進捗を上回る数量増により依然として外注加工費によるコスト増が続きました。今後は、当社グループの生産能力を超えた蒸着加工については、輸出先の現地外注業者の活用を進めます。

また、フライアイレンズの価格改定交渉は進みましたが、一部は平成 26 年 4 月以降の収益改善となります。

研究が終了した研究開発用電気炉について減損損失 26 百万円を特別損失に計上いたしました。

## 2. 営業外収益(助成金収入)の計上

平成 26 年 3 月期において助成金収入 112 百万円を営業外収益に計上いたしました。新潟県柏崎市に立地する子会社の新潟岡本硝子株式会社での原子力発電施設周辺地域企業立地支援給付金および原子力立地給付金などによるものです。

以上